

02 防犯対策の推進			
主管課名		総務部 総合防災安全課	
主管課長名		池上雅人	電話番号 042-481-7492
関係課名 (組織順)		協働推進課, 子ども政策課, 保育課, 児童青少年課, 福祉総務課, 緑と公園課, 街づくり事業課, 道路管理課, 学務課, 指導室, 社会教育課	
目的	対 象	市内にいるすべての人	
	意 図	安心して生活できる安全な環境をつくる	
施策の方向		市民一人一人の身近な犯罪に対する防犯意識の向上と防犯行動の促進, 地域ボランティアによる防犯活動の促進, 市民, 地域, 警察, 行政の協力体制の維持・向上により, 市民が安心して生活することができ犯罪のないまちづくりを目指します。	

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和3年度の振り返り ― 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
（02-1 身近な犯罪に対する防犯意識向上と防犯活動の推進） ・身近な犯罪に対する防犯意識の向上のため，特殊詐欺などの犯罪発生状況や具体的な手口，防犯対策などの生活安全情報を市報，市ホームページ，調布エフエムなどを活用して定期的に発信するとともに，市内での犯罪発生時には防災・安全情報メールを活用し随時の注意喚起を実施 ・警察署との積極的な情報共有による効果的・効率的な安全・安心パトロールの実施 ・子どもたちの防犯意識の向上を目的とした小・中学校（全28校）におけるセーフティ教室の実施を通じ，防犯教育を推進 ・子どもの危険予測能力の向上を図るため，危険な場所や行動を予測して，身の守り方を学習するツールを貸出（令和3年度1箇所：学童クラブ） ・小学校通学路を中心に登録をお願いしている犯罪から子どもを守る避難場所となる「こどもの家」の登録数は，継続を含めて2611件（令和4年3月末現在）	
①横断的連携による施策の推進 ・地域防犯力の向上に向けた地域における防犯活動を支援（地域の防犯ボランティア団体や「わんわんパトロール」への防犯用品の貸与，ボランティア保険の加入補助等） ・地域団体との合同パトロールを実施（11団体） ・地域の防犯パトロール団体に対する青色回転灯（視認性及び防犯力の高いV字型散光式回転灯）装着車両燃料費の一部を補助 ・防犯パトロール団体との合同パトロールや警察署と連携した青色防犯パトロール講習会の実施など，活動の充実，技術面の支援を実施	
（02-2 犯罪抑止対策の推進） ・青色回転灯を装着した専用車両による子ども安全・安心パトロール（下校時間帯～午後9時30分）及び夜間安全・安心パトロール（午後9時30分～明け方）を実施するとともに，市民からの要請に応じて柔軟にパトロール場所を設定しながら対応 ・特殊詐欺被害防止対策として，自動通話録音機899台の貸出しを実施（前年度比で404台増，累計貸出数3053台） ・市内における防犯機能の向上を図るため，京王線駅周辺や通学路等に街頭防犯カメラを設置（令和3年度の新規設置台数：京王線駅周辺4台，通学路等20台） ・子どもの犯罪被害抑止対策として，防犯ブザーを小学校1年生に配布 ・警察署からの情報をもとに，随時，防災・安全情報メールにより不審者の出没状況などを発信し，注意喚起を実施	
①横断的連携による施策の推進 ・地域団体が設置した街頭防犯カメラを対象に防犯設備整備補助金（令和3年度：1団体1台）及び防犯設備運用経費補助金（令和3年度：7団体）を交付 ・商店街・町会・自治会等が行う防犯設備整備事業に対して整備費用の一部を補助 ・警視庁，調布警察署，調布地区防犯協会と連携した各種防犯キャンペーンや防犯イベント等への協力・支援 ■連携テーマ3「2019・2020年を契機としたレガシーの創出」 ・安全安心なまちづくりの推進のため，市内防犯機能の向上を目指し，京王線の駅やその周辺に街頭防犯カメラを設置（令和3年度は仙川駅及びつつじヶ丘駅に計4台を設置。京王線駅周辺への累計設置台数は，令和4年3月末で19台）	

<令和3年度における施策の成果についての総括>

・自動通話録音機の貸出しや防災・安全情報メールを活用した注意喚起、青色回転灯装着専用車両による安全・安心パトロール、調布警察署や調布地区防犯協会と連携した各種の防犯キャンペーン・防犯イベント、出前講座、高齢者が集まる場での啓発活動のほか、他課が発送する通知書等に特殊詐欺被害防止の案内を同封するなどの周知・啓発活動を行った。市内犯罪認知件数は984件（前年度比で121件減）、特殊詐欺被害は68件、約1億3993万円（前年度比：6件増、約3687万円増）となった。

・市内における防犯機能の向上を図るため、京王線駅周辺地区における街頭防犯カメラの設置に加え、通学路等への設置を推進するとともに、商店会や地域団体が設置した街頭防犯カメラの設置及び維持管理に係る経費に対する補助金を交付した。

（令和4年3月末現在累計設置数：京王線駅周辺 19 台、通学路等 160 台、公園 9 台、商工会・地域団体 83 台）

まちづくり指標	基準値 (基準年度)	単位	実績値			目標値 令和4年度	達成状況※ 令和3年度
			令和元年度	令和2年度	令和3年度		
1 治安の面で自分の住んでいる地域が安心して暮らせると感じている市民の割合	83.3 (H30)	%	81.9	83.7	83.2	90.0	▼
2 市内刑法犯認知件数（暦年）	1,721 (H30)	件	1,509	1,105	984	1,450	◎
【特記事項】							

※R3年度の達成状況は、以下の区分により記号を記入

- ◎：目標値を達成
- ：前年度より向上した
- ▼：前年度より低下した
- ⇒：前年度と同じ
- －：数値未把握（調査未実施など）

◆まちづくり指標の目標達成見込み（令和4年度見込みを含めた現基本計画期間における達成度）

・達成見込みを次の区分により記号を記入

- ◎：「目標値達成に向け順調に推移」
- ：「目標値達成は現状難しいが、前年度より向上する見込み」
- △：「目標値達成は現状難しく、前年度と同等又は悪化する見込み」

まちづくり指標	達成見込み	要因・課題 (目標達成・未達成の要因・次期基本計画に向けた課題等)
1 治安の面で自分の住んでいる地域が安心して暮らせると感じている市民の割合 (目標値：90.0% 現状値：83.2%)	△	市民意識調査の結果については、昨年度より数値が減少したものの、横ばいに推移している。引き続き、安全・安心パトロールの実施や地域の見守り活動を支援していくことで、安心して暮らせるまちづくりを推進していく。
2 市内刑法犯認知件数（暦年） (目標値：1,450 件 現状値：984 件)	◎	自動通話録音機の貸出しや防災・安全情報メールを活用した注意喚起、青色回転灯装着専用車両による安全・安心パトロールを実施したことにより、認知数減につなげることができたと考えられる。一方で、特殊詐欺については、年々巧妙化し、深刻な社会問題となっていることから、引き続き、対策を講じていく。

2 令和3年度の振り返り — 評価 (CHECK)

◆施策の成果向上に向けて、令和3年度に実施した取組に対する評価

※コロナ禍を踏まえたプロセス、実績、成果の総合評価

総合評価	A	S：「実施した取組において顕著な成果が得られた。」 A：「実施した取組において予定した成果が得られた。」 B：「実施した取組において一定程度の成果が得られた。」 C：「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」 D：「実施した取組において成果が得られなかった。」
評価理由	・市内犯罪認知件数が目標値を下回ったため。 ・市や自治会、商店会が設置する街頭防犯カメラについて、計画どおりに設置が完了し、犯罪抑止対策としての環境整備を図ることができたため。 ・各種啓発の取組とともに、自動通話録音機の貸出数を大幅に増やすことができ、市民の防犯意識の向上を図ることができたため。	

◆現基本計画期間（令和4年度見込みを含む）における施策の取組状況

・左欄と右欄において、丸数字で対になるよう記載

計画どおり・計画より進んだ取組等 (現基本計画で予定した成果が十分得られる)	今後の取組の方向 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載
①市内に設置した街頭防犯カメラの維持管理 ②特殊詐欺被害防止に向けた対策の推進 ③地域の見守り活動の充実強化	①現在3課（緑と公園課・学務課・総合防災安全課）で公共スペースに設置している街頭防犯カメラは各課で維持管理を行っており、各課の連携強化のため、情報提供等のコーディネート役を総合防災安全課にて行っていく。 ②自動通話録音機の貸出促進や市報などによる被害防止啓発情報の発信、関係各所と連携した啓発活動の実施と併せて、特殊詐欺被害防止の対策を講じていない世帯の把握に努める。また、これまで活用してきた貸出機に関する東京都からの補助金については令和3年度で終了したことから、新たな補助金を活用し、継続していく。 ③安全・安心パトロールを引き続き実施するとともに、地域住民の自主的な防犯パトロールや「わんわんパトロール」等の事業周知及び支援を行う。
計画より遅れた取組等 (現基本計画で予定した成果が得られない)	遅れの理由や次期基本計画に向けた対応課題等 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載

◆現基本計画期間（令和4年度見込みを含む4年間）における施策の成果についての総括

・自動通話録音機の貸出しや防災・安全情報メールを活用した注意喚起、青色回転灯装着専用車両による安全・安心パトロールやわんわんパトロールの実施により、市内刑法犯認知件数の減少につなげることができた。 ・各種犯罪を未然に防止するため、自治会・商店街等による街頭防犯カメラ等の防犯設備の設置支援を継続するとともに、市が設置管理する街頭防犯カメラを有効活用することで、犯罪の抑止効果を高めることができた。		
評価	A	【評価区分】 現基本計画期間（令和4年度見込みを含む4年間）に対する進捗状況について、S～Dの5段階で評価 S：「計画以上に進捗した。予定以上の取組成果が得られた。」 A：「計画どおりに進捗した。予定した取組成果が得られた。」 B：「概ね計画どおりに進捗した。一定の取組成果が得られた。」 C：「進捗にやや遅れがみられた。あまり取組成果が得られなかった。」 D：「進捗に大きな遅れがみられた。ほとんど取組成果が得られなかった。」

3 次期総合計画期間を含む中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — （ACTION）

◆施策を取り巻く状況【A】（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※次期基本計画における重要な視点となる「デジタルトランスフォーメーション（DX）・スマートシティ」、「カーボンニュートラル」、「産学官連携」のほか、施策横断的なテーマである「共生社会の充実（パラハート）」、「安全・安心（防災・減災・防犯・感染症対策）」、「ソフト・ハードが一体となったまちづくり（中心市街地整備、地域別まちづくり、都市計画道路整備）」に関する状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国傾向な等潮流・	①刑法犯の認知件数は減少を続けており、ピーク時の平成14年（約285万件）以降、翌平成15年から減少傾向にあり、令和3年は約56万件となっている。空き巣やひったくりなどの「窃盗犯」が減っている一方、特殊詐欺は、令和3年は1万4461件、被害額約278億円と依然として高い水準で発生している。 また、女性が被害者となることが多い強制わいせつや公然わいせつ、子どもが被害者となった凶悪犯や粗暴犯も依然として発生している。	①警察署や関係各所と連携した防犯キャンペーン等を市内の犯罪等の傾向に応じて適宜実施する。 ②地域での活動に関する周知や活動のサポートを行うとともに、ボランティア等の登録者の拡充を図ることが必要となる。 ③犯罪発生情報や防災対策情報の取得方法についての周知を行う。 ④新たな補助金を活用して、自動通話録音機の貸出し事業を継続するとともに、特殊詐欺被害防止対策

東京都や近隣自治体の動向等	②安全・安心まちづくりの推進として以下の取組を重点的に実施 ・子どもの安全対策 ・防犯ボランティアの活動支援 ・地域における見守り活動支援 ③各地域で発生した「犯罪情報」や、犯罪を防ぐために必要な「防犯情報」等をメールで知らせる「メールけいしちよう」が平成28年から携帯アプリ（Digi Police）でも利用可能となり、令和4年3月現在でのダウンロード数が46万件となっている。	の案内を他課が発送する通知書等に同封し周知するほか、視点を変えた啓発活動を行う必要がある。
その他	④特殊詐欺被害防止対策として貸与している「自動通話録音機」の東京都の補助が令和3年度で終了し、新たな交付金を活用予定。	

◆施策を取り巻く状況【B】（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※上記の施策を取り巻く状況【A】の項目以外で、法改正・制度改正などの状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等		
東京都や近隣自治体の動向等		
その他		

施策０２「防犯対策の推進」に関連する基本計画事業

計画コード	8	重点P		—				
事務事業	地域での防犯パトロールの支援			総合戦略 ●				
所管部署	総務部 総合防災安全課 生活安全係							
事業概要	市民一人一人の防犯意識を高めるため、啓発用品の配付などを通じた啓発活動により、安全・安心なまちづくりを推進する。 自治会などの防犯ボランティア団体や、ながら見守り活動に参加する個人等を対象に、防犯パトロール支援用品の貸与や活動中の事故等を補償するボランティア保険加入により地域での自主防犯パトロールを支援する。 自家用車を活用した青色自主防犯パトロール団体にに対し、車両燃料費の一部を補助する。 地域団体、行政、警察機関と合同パトロールを実施し、地域防犯力の強化を図る。							
【PLAN▶DO▶CHECK】								
活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和３年度						
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)				
	○地域住民の防犯意識の高揚と自主的な防犯パトロールの促進	○防犯パトロール用消耗品などの貸与	○防犯パトロール用消耗品などの貸与	○防犯パトロール用消耗品などの貸与(約260個)				
		○防犯意識啓発用品の配布	○防犯意識啓発用品の配布	○防犯意識啓発用品の配布(約750個)				
	○地域団体による青色防犯パトロールの支援	○地域団体による青色防犯パトロールの支援	○地域団体による青色防犯パトロールの支援(5団体)					
	○防犯ボランティア保険の加入	○防犯ボランティア保険の加入	○防犯ボランティア保険の加入(約560人)					
事業費(千円)		2,680	2,612	2,036				
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0				
<table border="1"> <tr> <td>令和３年度 取組実績</td> <td> ☒ 計画どおり ☐ 計画遅れ ☐ 計画前倒し ☐ コロナ影響 </td> <td>実績評価</td> <td>◎</td> </tr> </table>					令和３年度 取組実績	☒ 計画どおり ☐ 計画遅れ ☐ 計画前倒し ☐ コロナ影響	実績評価	◎
令和３年度 取組実績	☒ 計画どおり ☐ 計画遅れ ☐ 計画前倒し ☐ コロナ影響	実績評価	◎					
説明	自治会や学校等の要請に応じて、パトロールベストや腕章などの防犯パトロール支援用品を貸与するとともに、年末年始において11の地域団体と合同パトロールを実施し防犯意識の向上を図った。 防犯講和及び出前講座等の機会を活用して、延べ44回の防犯意識の啓発を行った。 自家用車による青色自主防犯パトロール活動に対する、活動費(燃料費)の一部補助を継続して実施した。 ペットとの散歩の時間を活用した防犯ボランティア活動「わんわんパトロール」について、様々な媒体を用いて広報を行ったことにより、既存の会員の活動意欲を高めたほか、市民がペットと集うイベントへの参加や、庁内関係部署及び獣医師会の協力連携により、令和３年度の会員数は503人(前年度比67人増)となり、地域の見守り活動の拡大を図ることができた。							
								
【ACTION】								
今後の方向	☐ 現状継続 ☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☒ 市民参加と協働の取組改善							
今後の取組の方向	地域の防犯力の強化に向け、今後もハード面、ソフト面の双方におけるバランスの取れた支援策を検討していく必要がある。 地域の防犯力の充実・強化に向け、行政、警察機関との合同パトロールなどにより、地域活動の活性化に努めるとともに、活動意欲を更に高める取組を継続して実施する。 車両を使用した青色防犯パトロールについて、新たな参加者を募るための広報活動を継続して実施していく。 防犯パトロール支援用品を貸与している団体へのアンケート調査などを実施することで、活動実態を把握し、より効果的な支援につなげていく必要がある。また、アンケート調査の結果等を踏まえ、防犯支援用品の見直しを図る。							

※新型コロナウイルスの影響に関する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。

施策〇２「防犯対策の推進」に関連する基本計画事業

計画コード	9	重点P	①	防災・防犯の面で安全・安心に暮らせるまち		
事務事業	犯罪抑止対策の推進				総合戦略	●
所管部署	総務部 総合防災安全課 生活安全係					
事業概要	青色防犯パトロール車両による安全・安心パトロールは、ひったくりや空き巣などの市民生活を脅かす犯罪を未然に防ぐことを目的に、市内全域を対象に、夜間から翌朝まで専用の委託車両２台により、通年でパトロールを実施する。 子ども安全・安心パトロールは、子どもの犯罪被害を防ぐため、小・中学校及び児童館周辺や施設までの通学路を含む地域を基本に専用の委託車両４台により、学校開校日の下校時間帯から夜間まで、パトロールを実施する。 駅周辺など不特定多数の人が往来する公共空間における防犯機能の向上を目的として、街頭防犯カメラを設置する。					
【PLAN▶DO▶CHECK】						
活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和３年度				
		（計画）	（当初予算）		（決算・実績）	
	○安全・安心パトロールによる犯罪の抑止	○子ども安全・安心パトロール実施 ○夜間安全・安心パトロール実施 ○街頭防犯カメラの設置 ○特殊詐欺被害防止対策の実施 ・警察等の関係団体と連携した取組	○子ども安全・安心パトロール実施 ○夜間安全・安心パトロール実施 ○街頭防犯カメラの設置（４台） ○特殊詐欺被害防止対策の実施（自動通話録音機貸出６００台） ・警察等の関係団体と連携した取組		○子ども安全・安心パトロール実施 ○夜間安全・安心パトロール実施 ○街頭防犯カメラの設置（４台） ○特殊詐欺被害防止対策の実施（自動通話録音機貸出台数８９９台） ・警察等の関係団体と連携した取組	
	事業費（千円）	55,159	54,168		48,127	
	債務負担行為等による用地取得費	0	0		0	
令和３年度取組実績	☒ 計画どおり ☐ 計画遅れ ☐ 計画前倒し ☐ コロナ影響				実績評価	◎
説明	地域による自主的な防犯パトロール団体等との連携及び市民からのパトロール要請があった地区について、状況確認後、パトロールの重点地域を定めながら、子ども安全・安心パトロールを２２日、夜間安全・安心パトロールを３６５日実施し、犯罪の抑止に努めた。また、パトロール中に特殊詐欺や新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起の音声広報を行った。 令和３年の犯罪認知件数（９８４件）は減少に転じているものの、取組の継続が必要である。 効果的かつ効率的なパトロール業務の遂行に向け、調布警察署、委託業者、市による三者連絡会議を定期的に開催し、情報共有を図るとともに、パトロール内容について見直しを図った。 つつじヶ丘駅・仙川駅周辺地区に街頭防犯カメラを設置（全４台）し、街頭犯罪の抑止に努めた。 市内の高齢者世帯に対して特殊詐欺撃退自動通話録音機の無料貸出しを実施した（８９９台）。					
【ACTION】						
今後の方向	☐ 現状継続 ☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☒ 市民参加と協働の取組改善					
今後の取組の方向	近年、犯罪認知件数は減少傾向にあるとともに、市民意識調査における安心感の割合から、本事業は、安全・安心なまちづくりにおいて効果があると認識しており、今後も継続した取組が必要である。 事業の継続においては、調布警察署と情報共有を図り、委託業者を含めた三者連絡会議において効果的なパトロール地域の選定や市民からのパトロール要請等を踏まえて、重点警戒を実施するほか、年末等において、地域パトロール団体との合同パトロールを実施するなど、地域の自主防犯パトロールとの連携を図る中で、より効率的かつ効果的なパトロールを実施し、更なる犯罪抑止を図っていく。 調布警察署の意見も踏まえながら効果的な街頭防犯カメラの設置を進めていく。 自動通話録音機の更なる普及を目指し、様々な機会を通じて貸出し事業を広報するなど、件数の増加を図り特殊詐欺被害防止に努める。					

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。